2016年7月1日

司祭のてがみ

No.107

カトリック行橋小教区 ： 主任司祭　ベリオン･ルイ神父

特別聖年に当たっての「いつくしみのわざ」

●皆さんもご存知のように2015年12月8日（火）に始まった「いつくしみの特別聖年」は、11月20日をもって終わります。―この特別聖年に入るに当たって、教皇フランシスコは、個人的にも共同体としても、私たちが特にこの一年間「いつくしみのわざ」の大切さに対して認識を高め、イエスの弟子、キリスト者として生きるに当たってそれが不可欠であることを新たに自覚し、人に対して具体的に「いつくしみのわざ」を行うように強く呼びかけておられました。

―それに対して私たちはどんな反応を示してきたのでしょうか。―馬の耳に念仏か。それともその呼びかけに動かされ、関心をもって行動が伴うように心がけたのでしょうか。身をもって本気で私たちは「いつくしみの特別聖年」に「入った」のでしょうか。―「いつくしみの特別聖年」は半ばを超え、その閉幕はすでに近づいて来た今、そのことについて正直に、真剣に考える必要があるかもしれません。教皇フランシスコが繰り返し繰り返しおっしゃっているように「無関心ほど恐ろしいことがない」という言葉を頭の隅に置いておきながら―。

＊感謝の祭儀（ミサ）のオミリア（説教）を始め、行橋・豊津の評議会を通して、私たちは個人的に関心を持ち、行動するようにと幾度となく呼びかけられました。

＝身近にいる人々から…「同じ共同体の兄弟に対して『いつくしみの心』を具体的に示すように努力しよう」と。一人の評議員が提案したように「事情により教会に来られない方々をもっと気づかうようにしよう。勇気をもって「お元気ですか」の一本の電話を、また声をかける。…自分の足で趣味を通してでも出向くように努力しよう。…仲間には色々な形で困っている方、苦しんでいる方に寄り添い…自分の方から進んで近づくように…いずれにしても行動しましょう」と。

＝「職場、地域社会、…つまり自分の生活環境の中で『いつくしみのわざ』を行うようにしよう」と。

＝遠くにいる人々まで…。「敏感な心をもって〝父の御顔〟であるイエスに倣って神のいつくしみを証しするよう、個人的に励んでみるように心がけよう」と。

評議会からこのようによく勧められてきました。
＝特別聖年の閉幕まで 5 か月しか残っていない今、人に対する神のいつくしみを、自分が何をして、どのようにして証しすることができるかをもう一度確認し、一層関わりを持つことができるように新たに決心しましょう。
＊お知らせなどによって皆さんもご存知のことですが、行橋・豊津共同体のレベルでの「行動」に関して、評議会は計画を立て、協議してきました。いよいよ実現の日が近づいてきました。
●九州合同 CLC のイニシアチブで今年も福島の避難家族の方々がおいでになります。7 月 28 日（木）から 8 月 1 日（月）まで、3 家族が「いやしのさと」「なごみの家」で宿を取ることになりました。私たちの共同体はそのイニシアチブをサポートし、特にそのご家族の方々との交流を通して「いつくしみのひと時」を分かち合いたいと思います。そのことに関して後日、詳しいお知らせがされるのですが—すでに 7 月 30 日（土）は教会学校の子どもたちは「交流を通して、いつくしみの心を育みましょう」というテーマのもとで、福島の 3 家族と共に源じいの森で、ディ・キャンプを行うことが決まりました。保護者の皆さんの参加もお待ちしています。申し込みの締めきりは 7 月 17 日になっていますので、ご協力をよろしくお願いします。
福島の 3 家族の滞在の間、できるだけ多くの方が、少し時間を作り、交わるようにし、協力してくださいますようにお願い致します。参加するだけでも結構です。その参加には意義があるからです。
●さらに、7 月 31 日（日）16:00 より福島避難家族と熊本地震被災者支援のために、九十九依世子さんによるチャリティー・コンサートが行橋カトリック教会で開催されます。福島の家族の方々はこの催しに参加されます。行橋・豊津の皆さんもぜひご参加ください。

＊熊本地震被災者支援
＝こうして 7 月の間、私たちは「いつくしみの特別聖年」を思い起こし、「いつくしみのわざ」を行う機会をいくつも与えられます。その形で教皇フランシスコの呼びかけに具体的に応えることができるようになります。いや、教皇フランシスコを通してイエスが私たち一人ひとり、そして私たちの行橋・豊津の共同体に求めておられる「いつくしみのわざ」を行うことができます。—確かに、それに精一杯協力し、参加したとしてもその「いつくしみのわざ」が小さなもので、大したものではありませんが、小さなことができない自分はどうして大きなことを成し遂げることを期待することができるでしょうか。
—何も考えず、何もしないまま「いつくしみの特別聖年」の幕が下りないように願いながら…。